

「アンネのバラ」をいただきました！！



遺愛に来たバラ



アンネ・フランク

先日、「アンネのバラ」を茨城キリスト教学園の関係者からいただきました。

「アンネのバラ」は、『アンネの日記』のアンネ・フランクが、自然を愛し、とりわけバラが好きだったので、戦後アンネの父オットーとベルギーの育種家ヒッポリテ・デルフォルヘが協力して「形見」として捧げたバラです。

アンネは生前、「もし、神さまが私を長生きさせてくださるのなら、私は社会に出て、人類のために働きたいのです。」という言葉を残していました。

日本へは、1972年と1976年に、父のオットーから寄贈された物が広まり、愛と平和のシンボルとなっています。

「アンネのバラ」はつぼみの時は深紅、花が開き始めると、オレンジ、イエロー、そして淡いピンクと変化していき、清楚さと気品、そして明るさというアンネの性格や人柄を思わせ、またその色彩の変化が神秘的と感ぜられるほどに、鮮やかなバラです。これは、もし生き延びる事ができたなら、多くの可能性を秘めていたアンネを表現しています。この40年の間に日本各地に広がっていき、今では1万本以上になりました。(出典 Wikipedia より)

1994年12月、「アンネのバラ」は近隣の聖イエス会マリヤ教会から茨城キリスト教学園に寄贈され、翌年1995年に初めて開花しました。そして、2000年より茨城県内の幼稚園・保育園、小中高の学校、養護施設や老人ホームなどに、株分けした苗木を配布しています。学園では、平和を願い命の尊さを学ぶ活動の一つとして、「アンネのバラ」を接ぎ木して、希望する団体にも苗木をお贈りしているそうです。今回その1本をいただくことができました。心から感謝すると共に大切に育てたいと思っています。

2021年6月18日(金)